姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第19集

姫路城城下町跡

－姫路城跡第309次発掘調査報告書－

平成25年（2013年）

姫路市教育委員会

序

姫路城は、江戸時代の初期に池田輝政公により築かれてから現代に至るまで、ここ姫路の象徴として400年間存在し続けてきました。現在、五層六階、地下一階の大天守そびえる内曲輪、及び武家屋敷地であった中曲輪の大半が特別史跡に指定され保護が図られるとともに、その普遍的価値が認められ世界文化遺産に登録されています。

また、町人地・寺社を中心とした城下町が形成された外曲輪は、現在も本市の中心市街地として発展し続けております。その礎となった、江戸時代の遺構を調査し、記録を貴重な知的財産として保存し、継承していくことは、私どもの重要な使命であります。

この度は、亀井町において実施した発掘調査について、その調査成果をご報告いたします。

最後になりましたが、事業実施にあたり多大なご協力を賜りました株式会社ジェイアンドケー、その他関係各位のご尽力に心より感謝を申し上げます。

平成26年（2014年）3月
姫路市教育委員会
教育長　**中杉　隆夫**

目　　次

序
目　　次
例　　言・凡　　例

第１章　調査に至る経緯と調査地の位置……1
　１．調査に至る経緯……1
　２．調査地の位置……1

第２章　調査の成果……2
　１．調査の概要……2
　２．江戸時代以前の遺構……2
　３．江戸時代の遺構……2

例　　言

１．本書は、兵庫県姫路市亀井町66，74−1に所在する姫路城城下町跡（遺跡番号：020169）の発掘調査報告書である。

２．発掘調査は、株式会社ジェイアンドケーからの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。

３．本発掘調査（調査番号：20130251）は、姫路市埋蔵文化財センター小柴治子、玉越綾子が担当した。また、確認調査は、小柴治子が担当した。（調査番号：20130176）

調査の体制は以下の通りである。

教育委員会事務局	教　育　長	中杉隆夫	埋蔵文化財センター	館　　長	秋枝　芳
	教育次長	林　尚秀		係　　長	森　恒裕
	生涯学習部長	小林直樹		主　　事	嶋田　祐
	文化財課長	福永明彦		技術主任	小柴治子
	文化財課係長	大谷輝彦		嘱託職員	玉越綾子
	文化財課技術主任	福井　優			

４．整理作業及び報告書の作成には、以下の職員の協力を得た。

黒岩紀子、香山玲子、清水聖子、田中章子、玉越綾子、寺本祐子、野村知子、藤村由紀、三輪悠代

５．本書の執筆・編集は、小柴、関がおこなった。

凡　　例

１．発掘調査平面図は世界測地系を使用し、方位はすべて座標北である。また、標高は東京湾平均海水準（T．P.）を基準とした。

２．土層名は、『新版標準土色帳』（1999年度版）に準拠した。

３．本書で使用した遺構番号は、遺構種ごとにつけた。各遺構種は以下のように呼称した。

ピット→SP　土坑→SK　溝→SD、竪穴建物跡→SI

４．本報告に関わる遺物・写真・図面等は姫路市埋蔵文化財センターに保管している。

第１章　調査に至る経緯と調査地の位置

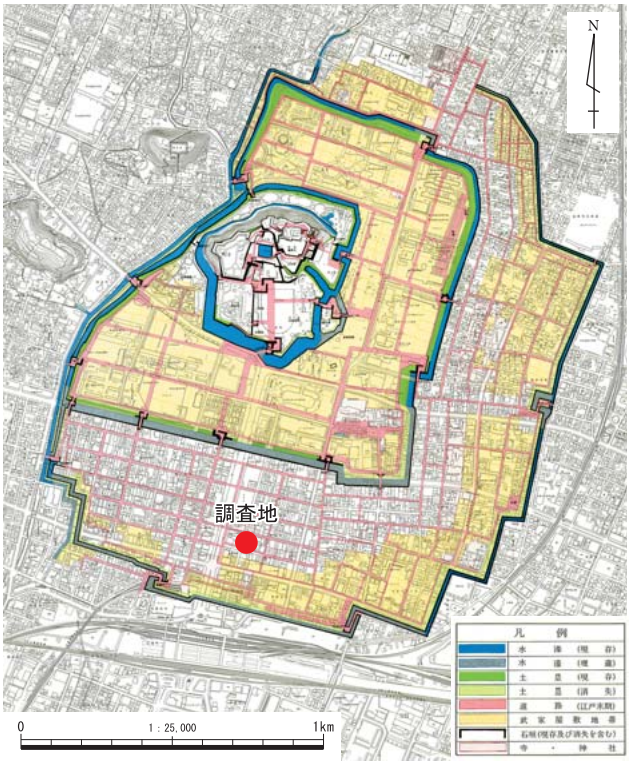
１．調査に至る経緯

姫路市亀井町において、株式会社ジェイアンドケーによる店舗の建設工事が計画された。当該地は、姫路城城下町跡（遺跡番号：020169）に該当しているため、平成25年（2013年）７月19日に確認調査（調査番号：20130176）を実施した。調査区は、２×１～２ｍの試掘坪を３箇所、工事予定地内に設定した。その結果、近世の整地層および地山を確認し、遺構が良好な状態で残されていることが判明した。このため、工事により遺跡が影響を受ける範囲を対象に、本発掘調査を実施することとなった。調査期間は、平成25年（2013年）８月29日～９月21日である。

調査は株式会社ジェイアンドケーの委託を受け、姫路市教育委員会が実施した。

２．調査地の位置

調査地にあたる姫路市亀井町は、姫路城大天守から南へ約１km、外曲輪に位置する。当該地は、現況ではみゆき通りに東面する東西方向に細長い区画である。しかし、江戸時代後期の酒井氏時代に作成された「姫路侍屋敷図」によると、付近は南側の街路に面する南北方向に細長い区画割となっており、調査範囲は、敷地の最も奥の部分にあたる。また、絵図において、武家屋敷や寺を表す表記は無く、町人地の一角であったことがわかる。（図１）



［『姫路城跡（城郭図）』（姫路市1986･2003）を一部改変･加筆］

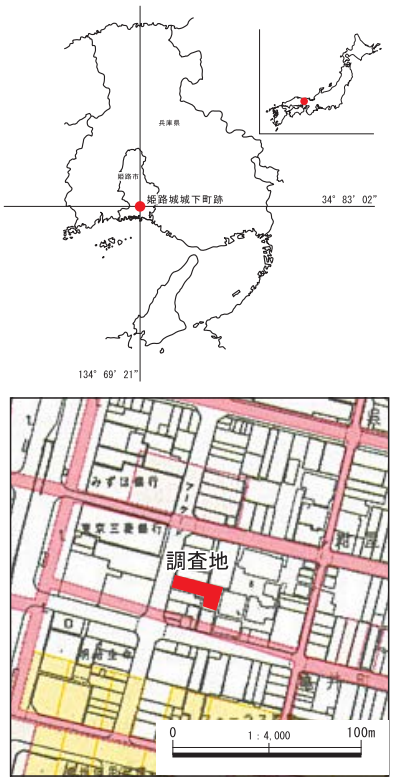


図１　調査地位置図

第２章　調査の成果

１．調査の概要

本発掘調査は、基礎工事範囲を対象とし形状が複雑であることから、便宜的に１～24区の調査区名を設定した。基本層序は明治時代以降の盛土、近世の整地層（部分的に２層）、基盤層の順である。標高11.6mで遺構検出をおこなったところ、竪穴建物跡１棟、溝２条、土坑58基とピット22基を確認した。部分的に明治時代以降の撹乱を受けているが、遺構等の残存状態は比較的良好であった（図５）。次に、時期ごとに詳細を述べる。

２．江戸時代以前の遺構

竪穴建物跡　SI1

３区、４区で検出した竪穴建物跡である。建物南西隅のプランを検出したが、それ以外は近世の遺構に切られて消失している。同じ埋土の広がりから、３ｍ×4.5m以上の大きさが想定できるが、明確な遺構の全体規模は不明である。深さは約0.1m分が残存していた（図２）。

遺物は南西隅壁面付近から、古墳時代前期とみられる土師器高杯、甕が出土した。高杯は杯部のみが２個体分あり、甕は体部の1/5程度である（図３）。

溝　SD1-1、SD1-2

３区、13区で検出した素掘り溝である。幅0.6m、深さ約0.4mを測る。遺構の形状、埋土の質、主軸の方向などから、これらは同一の遺構である可能性が高いと判断した。

城下町の街路の主軸がN－14°－Eであるのに対し、溝の主軸は西に約50°振るN－35°－Wをとる。SD1-1は、SI1を切っており、江戸時代の土坑に切られていることから、構築時期として古墳時代以降から江戸時代以前があてられるが、遺物がほとんど出土せず、詳細な時期は不明である。

3. 江戸時代の遺構

柱穴　SP1～22

全部で22基を検出した。ほとんどが、直径約0.2～0.3の円形掘方がある掘建柱である。柱痕の直径は、0.15m前後である。すべて単独で検出し、建物跡に復元できるものはなかった。

溝　SD2

南北方向を主軸とする素掘り溝である。19区および20区で検出しており、一連の遺構である可能性が高いと判断した。遺構の規模は、幅65㎝、深さ20㎝を測る。

出土遺物が微量であるため、明確な時期は不明であるが、主軸の方向が南側街路に直交することから、敷地の境界を兼ねた排水溝であるとも推測される。

土坑　SK

盛土直下の遺構検出面および、一面下層の整地層上面から58基を検出した。（表１、２）。このうち、１区のSK1･SK2は、円形で掘方を持つ。断面の観察でも痕跡は認められなかったものの、桶を据えた土坑であった可能性が推測される。また、３区のSK17は、円形の漆喰塗りの土坑であった。

出土遺物は、土師質土器炮烙・灯明皿、瓦質土器火鉢、陶器碗・皿・鉢・すり鉢・徳利・行平堝・急須・植木鉢、染付磁器碗・皿、土人形などである。SK26からは、東山焼染付磁器皿が出土した（写真図版５、６）遺物の中には、18世紀に遡るものも含まれているが、共伴遺物の構成から遺構の時期は全て19世紀に相当すると判断した。

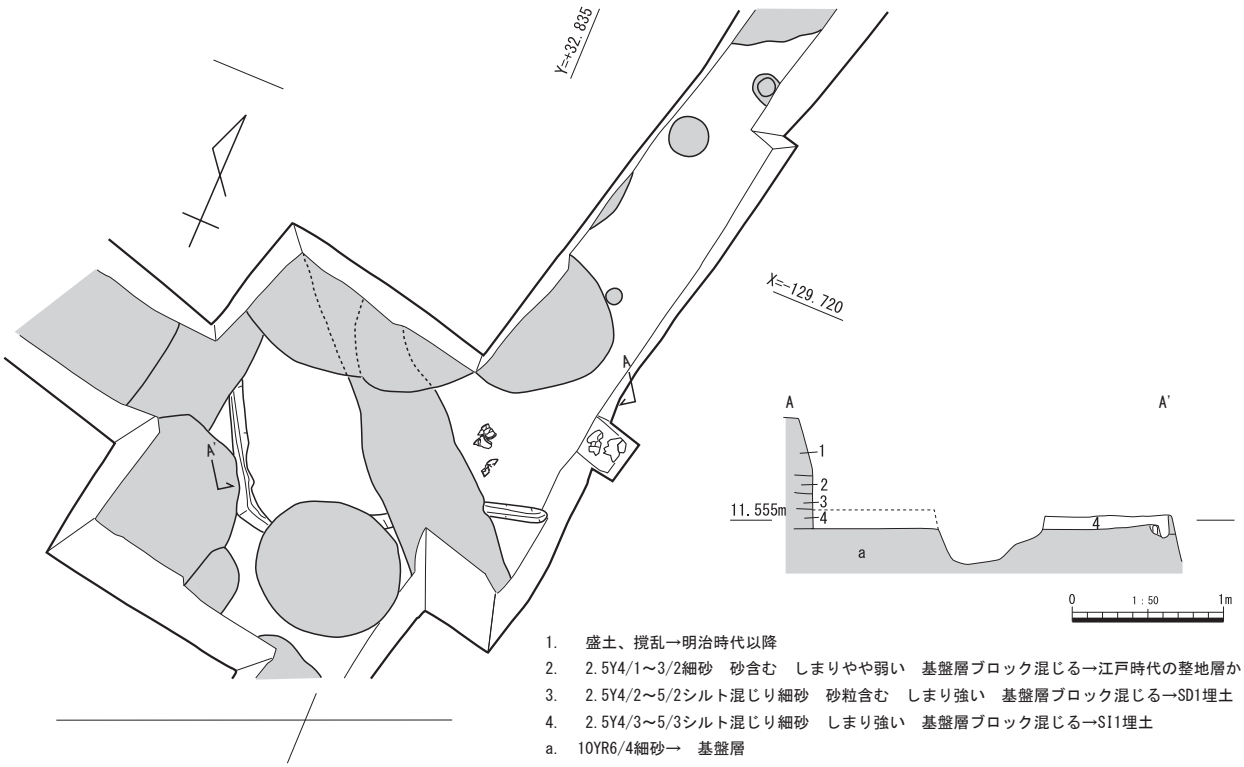


図２　SI1　平･断面図 S=1:50

図３　SI1 出土遺物実測図　S=1:4

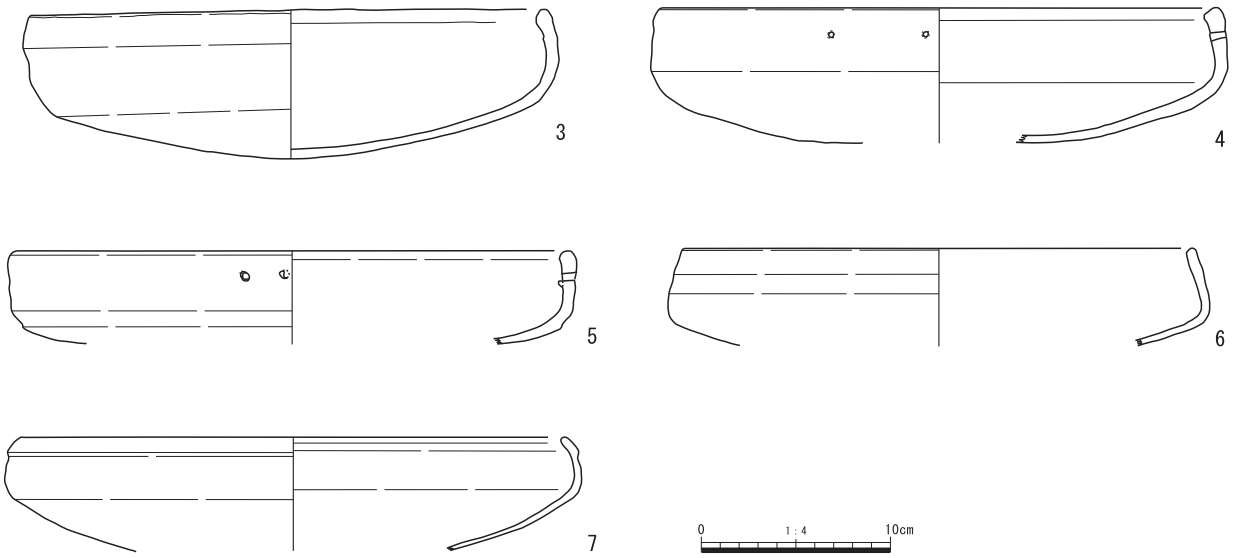


図４　土坑　出土遺物実測図　S=1:4　(3～5:SK23, 6･7:SK43-1)

No.	遺構番号	地区	形状	規模(m)	深さ(m)	埋土	時期	備考
1	SK1	1区	円形	径1.0m (掘方径1.2m)	0.85m	10YR4/2～5/6シルト混じり細砂	江戸時代後期	痕跡は認められなかったが、桶を据えていた可能性がある
2	SK2	1区	円形	径1.05m (掘方径1.3m)	0.62m	2.5Y4/2～3/1細砂　粗砂、礫含む	江戸時代後期	痕跡は認められなかったが、桶を据えていた可能性がある
3	SK4	1区	楕円形	(0.6)×0.33m	0.2m	2.5Y4/1～3/1細砂　砂含む	江戸時代後期	
4	SK5	1区	不整形 (円形指向)	(0.76)×0.7m	0.1m	2.5Y4/1細砂　砂含む　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
5	SK6	1区、2区	円形	径1.25m (掘方径1.35m)	0.72m	2.5Y5/2～4/2シルト混じり細砂　砂含む　炭片、基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
6	SK8	1区	楕円形	(0.6)×0.56m		2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂を含む	江戸時代後期	SK5、6に切られている
7	SK9	1区	長方形	(0.9)×(0.3)m	0.1m	2.5Y5/1細砂ブロック+基盤層ブロック	不明	SK5に切られている。調査区内で認められた江戸時代の整地層が、地形の凹みに溜まり、土坑状に見えている可能性がある。
8	SK10	6区	不整形	1.58×(0.85)m	0.6m	2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む	江戸時代後期	
9	SK11	6区	楕円形	0.85×(0.8)m	0.43m	2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む	江戸時代後期	
10	SK12	9区	楕円形	0.7×0.52m	0.18m	2.5Y4/1シルト混じり細砂	江戸時代後期	
11	SK13	9区	楕円形	0.85×0.65m	0.26m	2.5Y4/1シルト混じり細砂　基盤層ブロック多く混じる	江戸時代後期	
12	SK14－1	9区	不整形	(1.68)×(0.9)m	0.2m	2.5Y4/1シルト混じり細砂　炭片を含む	江戸時代後期	
13	SK14－2	9区	円形	(0.5)×(0.42)m	0.28m	2.5Y4/1シルト混じり細砂　基盤層ブロック少量混じる	江戸時代後期	
14	SK16	10区	不整形	1.46×(0.73)m	0.7m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	
15	SK17	3区	円形	径1.0m	0.42m	2.5Y3/1～3/2細砂　砂、礫遺物を含む	江戸時代後期	漆喰塗り
16	SK18	3区	不整形	(1.0)×(0.9)m	0.7m	2.5Y4/1～3/1細砂　砂、礫を多く含む	江戸時代後期	
17	SK19	3区	不整形	(0.54)×(0.75)m	0.35m	2.5Y4/1～3/1細砂　砂、礫を含む	江戸時代後期	
18	SK20	3区	不整形	(0.6)×(0.6)m	0.63m	2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
19	SK21	3区、4区	不整形 (円形指向)	(1.72)×(0.8)m	0.29m	2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
20	SK23	4区、5区	不整形 (円形指向)	(1.25)×1.1m	0.6m	2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
21	SK24	7区	不整形	1.1×(0.3)m	0.82m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む 土器、炭等遺物を含む	江戸時代後期	
22	SK25	7区	不整形 (円形指向)	1.9×1.2m	0.56m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む 土器、炭等遺物を含む	江戸時代後期	
23	SK26	7区、11区	不整形	(2.2)×(1.4)m	0.75m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む 土器、炭等遺物を含む	江戸時代後期	
24	SK27－1	11区	不整形	(2.3)×2.2m	0.8m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	SK26、SK27-2に切られている
25	SK27－2	11区	不整形	(1.1)×(0.4)m	0.8m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	
26	SK29	12区、13区	楕円形	2.3×1.22m	0.92m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂を含む	江戸時代後期	
27	SK30	13区	不整形	2.0×0.9m	0.5m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む 土器、炭等遺物を含む	江戸時代後期	
28	SK32	6区	楕円形	0.75×(1.5)m	0.2m	2.5Y4/2～5/2シルト混じり細砂　砂粒含む　しまり強い　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
29	SK33	9区	不整形	(0.5)×(0.2)m	0.1m	2.5Y4/2～5/2シルト混じり細砂　砂粒含む　しまり強い　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
30	SK36－1	16区、17区	不整形	(2.12)×(2.0)m	0.55m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫多く含む 遺物を多く含む	江戸時代後期	

表１　土坑一覧表(1)

No.	遺構番号	地区	形状	規模(m)	深さ(m)	埋土	時期	備考
31	SK36－2	16区、17区	不整形	(0.95)×(0.7)m	1.0m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	
32	SK36－3	16区、17区	不整形 (溝状)	(0.9)×0.52m	0.45m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	
33	SK36－4	16区、17区	不整形	(0.4)×(0.2)m	0.2m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	
34	SK37	16区	不整形	(1.1)×(0.4)m	(0.03)m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂を含む　基盤層ブロック混じる	江戸時代後期	
35	SK38	16区	不整形	(0.42)×0.3m	0.08m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む　しまり弱い　貝殻を多く含む	江戸時代後期	
36	SK39	16区、17区	不整形	0.45×(0.3)m	0.3m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　しまりやや弱い　遺物を含む	江戸時代後期	
37	SK40	16区	不整形	(0.36)×(0.28)m	0.15m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む　しまり弱い　貝殻を多く含む	江戸時代後期	
38	SK41	16区	不整形	(0.6)×(0.26)m	0.35m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　しまりやや弱い　遺物を含む	江戸時代後期	
39	SK42	16区、20区	不整形 (円形指向)	1.15×(0.9)m	0.93m以上	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂 粗砂	江戸時代後期	
40	SK43－1	16区	不整形	(2.15)×1.8m	0.85m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む　しまり弱い　貝殻を多く含む	江戸時代後期	
41	SK43－2	16区	不整形	(1.5)×(0.4)m	(0.17)m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む　しまり弱い　貝殻を多く含む	江戸時代後期	
42	SK44	20区	不整形	2.2×(0.42)m	0.23m	2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む	江戸時代後期	
43	SK47	21区	不整形	(0.44)×(0.43)m	0.75m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫多く含む 遺物を多く含む 下層は2.5Y4/1～4/2細砂	江戸時代後期	
44	SK48	21区	不整形	(0.26)×(0.1)m	0.1m	2.5Y4/2～5/2シルト混じり細砂　砂粒含む　しまり強い　基盤層ブロック混じる	不明	江戸時代以前の遺構である可能性がある
45	SK49	24区	不整形 (円形指向)	0.32×(0.32)m	(0.03)m	2.5Y4/1～3/2細砂　粗砂を含む	江戸時代後期	
46	SK50	24区	不整形	(0.32)×(0.1)m	(0.01)m	2.5Y4/1～3/2細砂　粗砂を含む	江戸時代後期	
47	SK52	24区	不整形 (楕円形指向)	1.5×(1.5)m	1.0m以上	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫多く含む 遺物を多く含む	江戸時代後期	
48	SK53	23区	不整形 (溝状)	(0.26)×0.18m	(0.07)m	2.5Y4/1～3/2細砂　粗砂を含む	江戸時代後期	
49	SK54	23区	不整形	(0.4)×(0.2)m	(0.05)m	2.5Y4/1～3/2細砂　粗砂を含む	江戸時代後期	
50	SK55	23区	不整形 (楕円形指向)	(0.76)×0.7m	(0.05)m	2.5Y5/1細砂ブロック＋基盤層ブロック	不明	調査区内で認められた江戸時代の整地層が、地形の凹みに溜まり、土坑状に見えている可能性がある。
51	SK56	23区	不整形	(0.54)×(0.32)m	0.5m	2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む	江戸時代後期	
52	SK57	22区	不整形 (溝状)	2.26×0.22m	0.05m	2.5Y5/1細砂ブロック＋基盤層ブロック	江戸時代後期	調査区内で認められた江戸時代の整地層が、地形の凹みに溜まり、土坑状に見えている可能性がある。
53	SK58	22区	不整形	(0.54)×(0.12)m	0.38m	2.5Y4/1～4/2細砂	江戸時代後期	
54	SK59	23区	不整形	(0.6)×(0.48)m	0.6m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫含む 下層は2.5Y4/1～4/2細砂	江戸時代後期	
55	SK60	23区	不整形 (円形指向)	(0.46)×(0.24)m		2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂含む	江戸時代後期	
56	SK61	19区	不整形	(2.62)×(0.35)m	0.45m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	
57	SK66－1	18区	不整形	2.5m×(0.9m)	0.85m	2.5Y3/1～3/2細砂　粗砂、礫多く含む	江戸時代後期	

SK3、7、15、28、34、35、45、46、51は調査時の断面等の検討により、最終的に土坑ではないとの判断に至ったため、欠番とした。
SK22、31は、それぞれSI1,SD1-2に遺構名を変更したため、欠番とした。
土坑の規模のうち(　)の数値は、調査区内で検出した最大の範囲である。深さは断面から復元した数値である。(　)の数値は、検出面からの深さである。

表２　土坑一覧表(2)

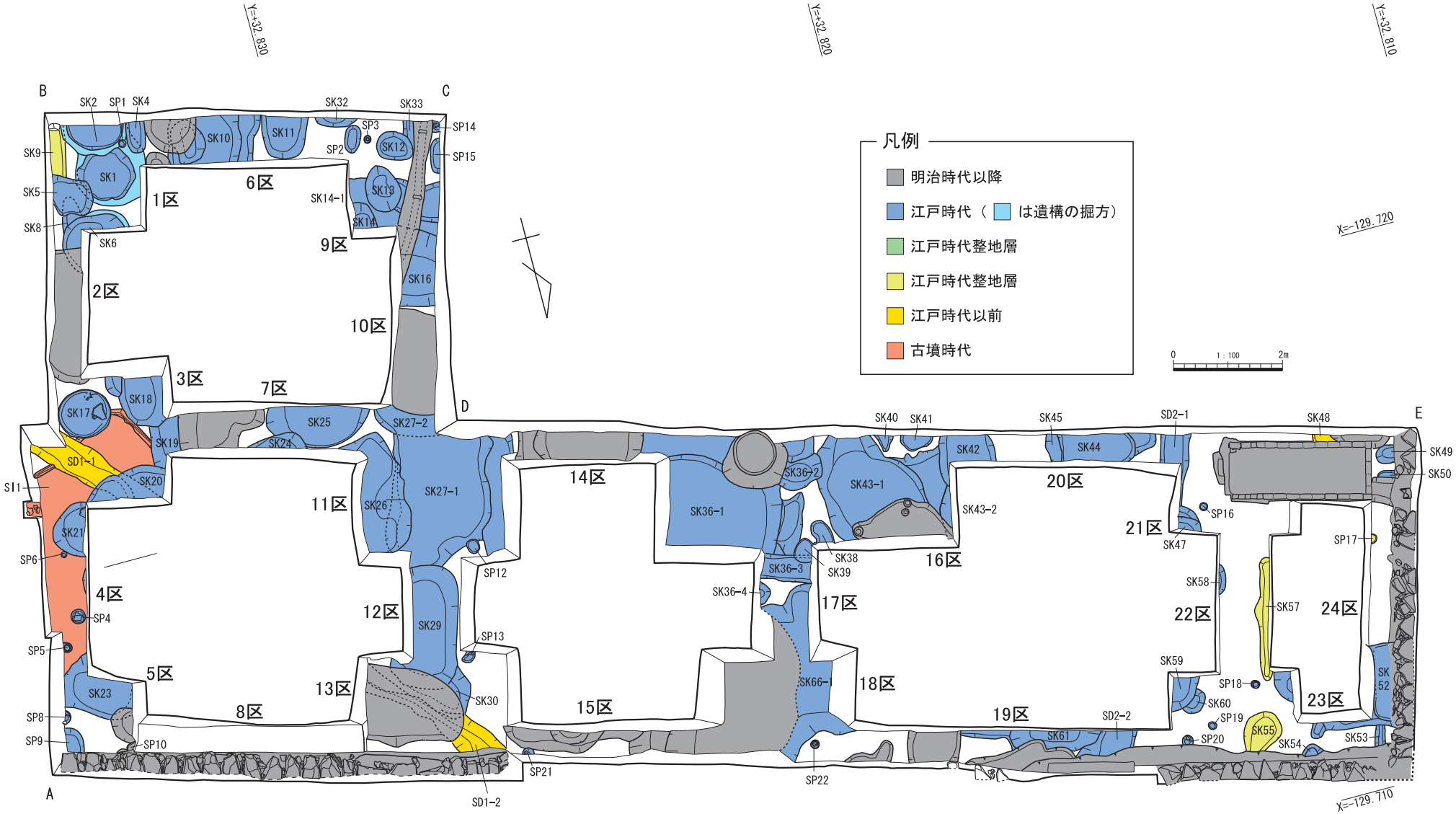
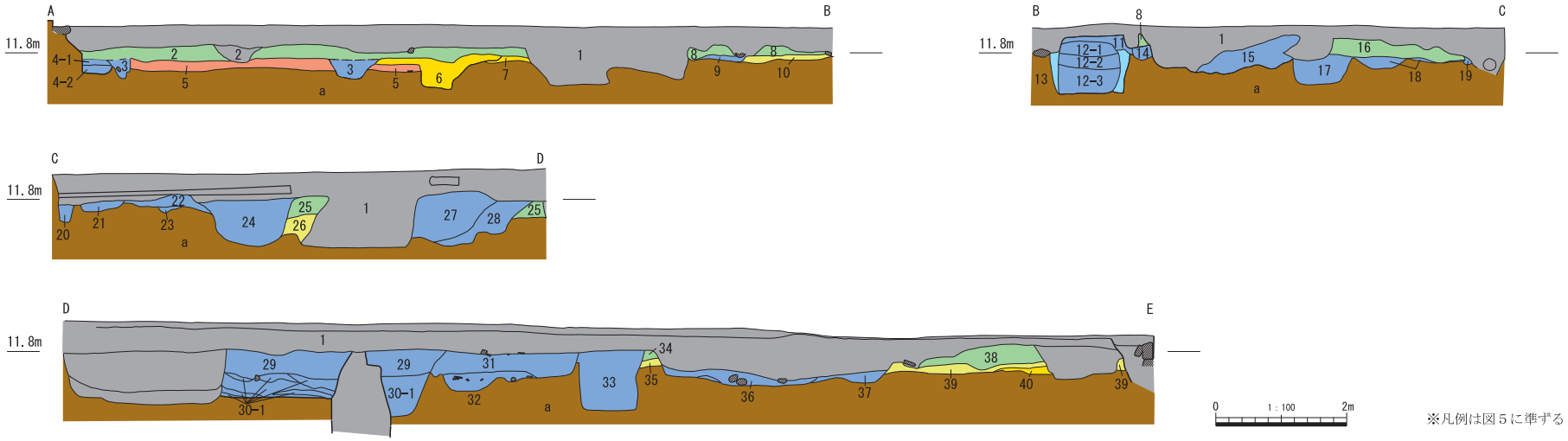


図５　調査区平面図　S=1:50



※凡例は図５に準ずる

1.　盛土、撹乱→明治時代以降
2.　2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　しまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→江戸時代の整地層か
3.　2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　しまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→SP8、SK21埋土
※2層との境界が不明瞭であるが、2層より基盤層ブロックが多く混じる
4-1.　2.5Y4/1～5/1シルト混じり細砂　しまり良い　基盤層ブロックが微量に混じる→SP9埋土
4-2.　2.5Y4/1～5/1シルト混じり細砂　しまり良い　基盤層ブロックが4層より多く混じる→SP9埋土
5.　2.5Y4/3～5/3シルト混じり細砂　しまり強い　基盤層ブロック混じる→SI1埋土
6.　2.5Y4/2～5/2シルト混じり細砂　砂粒含む　しまり強い　基盤層ブロック混じる→SD1埋土
7.　2.5Y5/2シルト混じり細砂　砂粒含む　しまり強い　基盤層ブロック混じる→SD1埋土
8.　2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　しまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→江戸時代の整地層か
9.　2.5Y4/1細砂　砂含むしまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→SK5埋土
10.　2.5Y5/1細砂ブロック+基盤層ブロック　しまり良い→江戸時代の整地層か
11.　2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い
12-1.　2.5Y4/2～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い→SK2埋土
12-2.　2.5Y4/2～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い　基盤層ブロック混じる→SK2埋土
12-3.　2.5Y3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い→SK2埋土
13.　2.5Y5/1シルト混じり細砂　しまり良い　基盤層ブロック混じる→SK2掘方埋土
14.　2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い
15.　2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い　貝殻を多く含む→SK10埋土
16.　2.5Y4/1～3/2細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い　基盤層ブロック混じる→江戸時代の整地層か
17.　2.5Y4/1～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い
18.　2.5Y4/2～5/2シルト混じり細砂　しまりやや弱い　基盤層ブロック多く混じる→SK32埋土
19.　2.5Y4/2～3/1細砂　粗砂、礫含む　しまり弱い　基盤層ブロック多く混じる
20.　2.5Y3/1シルト混じり細砂　砂含む　しまり弱い→SP14埋土
21.　2.5Y3/1シルト混じり細砂　砂含む　しまり弱い→SP15埋土
22.　2.5Y4/2シルト混じり細砂　粗砂含む　しまり弱い→SK14上層埋土
23.　2.5Y4/2シルト混じり細砂　粗砂含む　しまり弱い　基盤層ブロック混じる→SK14上層埋土
24.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む　しまり弱い 土器、炭等遺物を多く含む→SK16埋土
25.　2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　しまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→江戸時代の整地層か
26.　2.5Y5/1細砂ブロック+基盤層ブロック　しまり良い→江戸時代の整地層か
27.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む　しまり弱い 土器、炭等遺物を含む→SK27-2埋土
28.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む　しまり弱い 土器、炭等遺物を多く含む→SK27-1埋土
29.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む　しまりやや弱い　遺物を多く含む→SK36埋土
30-1.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫多く含む　しまり良い　基盤層ブロック混じる→SK36埋土
30-2　10YR6/4細砂　基盤層ブロック→SK36埋土
31.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　しまりやや弱い　遺物を含む→SK43埋土
32.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む　しまり弱い　貝殻を多く含む→SK40、41、43埋土
33.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂含む　しまりやや弱い　→SK42埋土
34.　2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　しまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→江戸時代の整地層か
35.　2.5Y5/1細砂ブロック+基盤層ブロック　しまり良い→江戸時代の整地層か
36.　2.5Y3/1～3/2シルト混じり細砂　粗砂、礫を含む　しまり弱い
37.　2.5Y5/2～4/2シルト混じり細砂　しまりやや弱い　基盤層ブロック多く混じる→SD2-1埋土
38.　2.5Y4/1～3/2細砂　砂含む　しまりやや弱い　基盤層ブロック混じる→江戸時代の整地層か
39.　2.5Y5/1細砂ブロック+基盤層ブロック　しまり良い→江戸時代の整地層か
40.　2.5Y4/2～5/2シルト混じり細砂　砂粒含む　しまり強い　基盤層ブロック混じる→SD1埋土
a.　10YR6/4細砂→　基盤層

図６　調査区南壁･東壁　断面図　S=1:50

写真図版 1

1.2.3.6.7.9.10区（北から）

3.4.5.7.8.11.12.13区（北から）

1区（北から）

1区～3区 東壁断面（北西から）

3区 SK17遺物出土状況（西から）

3区･4区 SI1（北西から）

SI1断面（西から）

3区～5区 東壁断面（南西から）

SI1遺物出土状況（西から）

SI1遺物出土状況（西から）

写真図版 3

5区（南西から）

1区・6区 南壁断面（北東から）

7区　南壁～10区 東壁断面（北西から）

9区・10区（北東から）

9区～11区 西壁断面（南東から）

9区・10区 西壁～11区 南壁断面（北東から）

7区 北壁～11区 東壁断面（南西から）

12区～13区 東壁断面（北西から）

14区～24区（東から）

22区･23区（南東から）

SK55断面（南から）

14区･16区 南壁断面（北西から）

24区（南西から）

写真図版 5

※数字は実測番号に対応

SI1

22区

SK17

SK26　東山焼

SK26

※数字は実測番号に対応

SK23

SK30

SK27

SK31

SK43-1

SK52

SK66-1

報告書抄録

ふりがな	ひめじじょうじょうかまちあと
書名	姫路城城下町跡
副書名	姫路城跡第309次発掘調査報告書
巻次	姫路城城下町跡
シリーズ名	姫路市埋蔵文化財センター調査報告
シリーズ番号	第19集
編著者名	小柴 治子
編集機関	姫路市埋蔵文化財センター
所在地	〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番1　TEL(079)252－3950
発行年月日	平成26年（2014年）３月31日

ふりがな 所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
ひめじじょうじょうかまちあと 姫路城城下町跡	兵庫県姫路市 亀井町66､74-1	28201	020169	34度 83分 02秒	134度 69分 21秒	2013. 8. 29 ～ 2013. 9. 21	127 ㎡	店舗 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	遺跡調査番号
姫路城城下町跡	集落跡	古墳時代	竪穴建物跡	土師器	20130251
		江戸時代以前	溝	－	
		江戸時代	溝、土坑、ピット	陶磁器、土師器、瓦	

姫路市埋蔵文化財センター調査報告　第19集

姫路城城下町跡 ― 姫路城跡第309次発掘調査報告書 ―

平成26年(2014年) 3 月31日　発行

編　　集　姫路市埋蔵文化財センター　〒671-0246　兵庫県姫路市四郷町坂元414番地1
TEL(079)252－3950

発　　行　姫路市教育委員会　〒670-8501　兵庫県姫路市安田四丁目１番地
TEL(079)221－2787

印刷・製本　丸山印刷株式会社　〒676-8566　兵庫県高砂市神爪１丁目11番33号